

3 2025 年に目指すべき医療提供体制の方向性

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると松阪地域については、平成 27 年（2015）年から平成 37（2025）年の 10 年間で 15,000 人の人口減が見込まれています。その後は 5 年ごとに約 9,000 人の人口減が見込まれています。

また、65 歳以上 75 歳未満人口は平成 27（2015）年頃をピークに、75 歳以上人口は平成 42（2030）年頃をピークに、その後減少していくことが見込まれています。

以上により、当該地域の医療需要はやがて減少していくことが予想されます。

このような中、2014 年病床機能報告の状況からは、松阪地域については回復期機能の一層の充実が求められるといえます。

○3つの基幹病院それぞれが持っている急性期機能については、重複している部分もあることから、効率性及び質の確保の観点から、将来における集約化・重点化を想定しておくことが重要といえるのではないかと。

○20年後、30年後における当該地域の人口動態等を踏まえながら、10年後（2025年）における機能分化のあり方を検討していくことが必要ではないかと。この場合、3つの病院の関係者による定期的な協議の場を持つこととしてはどうか。

また、必要に応じて、医療機関間の病床や医療従事者の融通が可能となる地域医療連携推進法人制度の導入についても検討してはどうか。

上記の詳細及びその他の病床を有する医療機関の機能については、将来にわたる人口動態等を踏まえながら、地域医療構想調整会議において引き続き検討していくこととします。